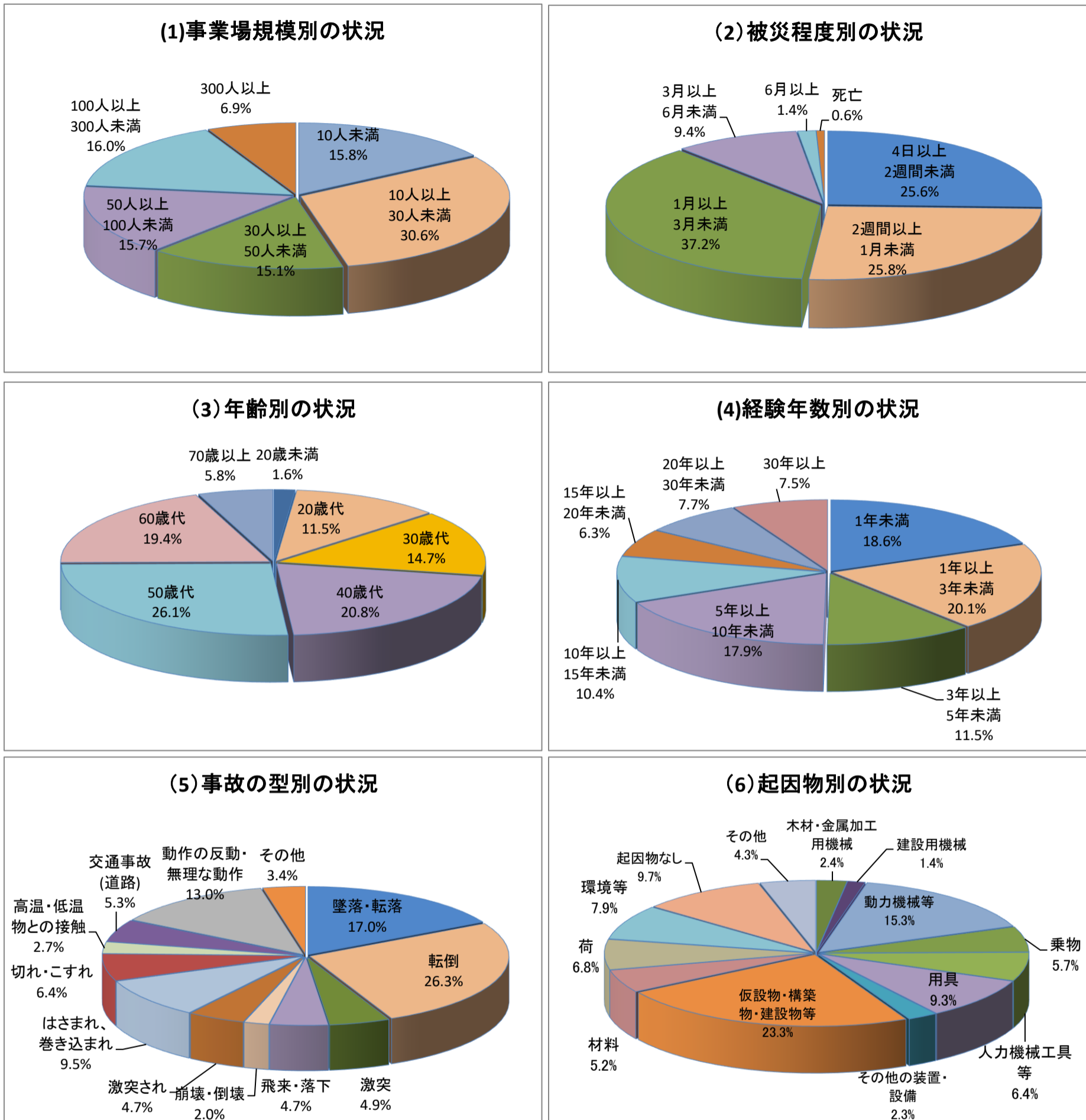


12.全産業における労働災害発生状況(令和2年)

(全産業：2,407人)



1. 事業場規模別では、「10人以上30人未満」の事業場が30.6%と最も多く、次いで「100人以上300人未満」が16.0%、「10人未満」が15.8%、「50人以上100人未満」15.7%の順となっている。50人未満の事業場が61.5%を占めている。
2. 被災程度別では、休業日数「1月以上3月未満」の災害が37.2%と最も多く、次いで「2週間以上1月未満」が25.8%、「4日以上2週間未満」25.6%の順となっている。
3. 年齢別では、「50歳代」が26.1%と最も多く、次いで「40歳代」が20.8%、「60歳代」19.4%の順となっている。60歳以上が25.2%となっている。
4. 経験年数では、「1年以上3年未満」が20.1%と最も多く、次いで「1年未満」が18.6%、「5年以上10年未満」17.9%の順となっている。経験年数が短い者の割合が高くなっている。
5. 事故の型は、「転倒」が26.3%と最も多く、次いで「墜落・転落」が17.0%、「動作の反動・無理な動作」13.0%(このうち33.2%が腰痛を発症している。),「はさまれ・巻き込まれ」9.5%の順となっている。
6. 起因物別では、「仮設物・構築物・建築物等」が26.3%と最も多く、次いで「動力機械等」が17.2%、「用具」8.5%の順となっている。(※「動力機械等」は、一般動力機械(食品等加工機械、ロール機等)、動力クレーン等、動力運搬機等の合計)